

## ＜産地レポート＞

### 「JAぎふ管内 農事組合法人 巣南営農組合」のご紹介

すなみ  
ジェイカムアグリ(株)「農業と科学」編集部

岐阜県瑞穂市巣南地区で、水稻・小麦・大豆・野菜など、多岐にわたる農産物栽培・農作業受託を行う「農事組合法人 巣南営農組合」。行政や自治会、JA等と協力し、地元根差した活動を行っています。「安全・安心・健康な農産物づくり」をモットーとする同組合の小川勝範理事長にお話を伺いました。

#### 【沿革・概況】

昭和63年に前身の「巣南受託営農組合」を発展的に解散し、同年「農事組合法人 巣南営農組合」が発足しました。現在は、理事4名、従業員2名、パート13名の計19名で活動しています。

経営面積は、120ha（水稻83ha、小麦40ha、大豆14ha、飼料用米22ha、野菜2ha）。さらに、農作業受託面積を加えると、168haもの面積になります。

経営内容は、米・麦・大豆に加え、ニンジン・キャベツ・ブロッコリーなど野菜約15品目を栽培し、JA直売所の「おんさい広場」に出荷しています。

#### 【主な取り組み】

地産地消の拡大は、私たち担い手にとって大きな目標です。そこで、平成23年度から、瑞穂市の学校給食へ米・野菜の提供を行っています。

同年度には、地元自治会と災害時における米の配給を通じた食糧調達の協定も結び、災害時を想定した炊き出し訓練を実施、災害時に米配給を行えるよう、災害支援米400俵を常時備蓄しています。

栽培面では安全・安心に配慮した「ぎふクリーン農業」に取り組み、低コスト対策として、田んぼに植える苗の数を少なくする栽培方法（密播疎植栽培）や、苗箱に直接施肥する播種時一発肥料の「苗箱まかせ」を使用し作業の省力化を図ることを積極的に行っています。

#### 【土地利用型農業の確立に向けて】

現在、日本の農業は所得の減少、担い手不足、農業者の高齢化など多くの課題を抱えています。このことは、私たちにとっても同様の課題です。

これらに対応するため、農地管理費の削減策として用排水路の整備、畦畔管理などの農地・水・環境保全事業を進めてきました。また、農地を小区画から大区画に集約することによる生産コスト削減にも努めています。

#### 【今後の目標・計画】

私たちは、巣南地区にある唯一の担い手組織で、今まで以上に地元とのつながりを深めていく活動を行っていきたいと思います。例えば、地元の小学校との連携による農業体験学習を始めました。次世代・次々世代に農業の魅力を伝えることは、とても大切なことです。

経営では、飼料用米の作付面積を増やし、岐阜県の畜産界の発展にもっと貢献していけたらと考えています。農業も畜産も、資源の乏しい日本には不可欠の存在ですからね。

最後に小川理事長は、「消費者目線で仕事をするのが、消費者からの信頼を勝ち取る唯一の方法」と話されました。シンプルですが、非常に重みのある言葉ですね。同組合の今後の活躍に注目です。



前列左から、えび江尾泰之理事、小川勝範理事長、大平勝義理事、吉田章理事と従業員の皆さん

### 巢南営農組合の「苗箱まかせ」の取り組みについて

同組合は、平成25年度に栽培試験を実施して好結果を受け、小川理事長の鶴の一声で本格的に「苗箱まかせ」栽培に取り組むことを決定され、翌26年度は36haを計画。播種ラインを更新するに当り「苗箱まかせ」専用ホッパーを新設して時間播種600枚に対応できる施肥機を導入し、箱底に肥料を投入するラインが完成した。

27年度には面積85haを計画、肥料は通常10kg袋の規格であるが投入労力の省力化のために、全国に先駆けてフレコン500kg袋を導入。ホイストクレーンを設置し合理的な播種作業を実施している。



写真：苗箱ホッパーと施肥機

フレコンとホイスト

箱底に肥料を投入

4年目に当る28年度は120haで実施。品種は岐阜県奨励品種「ハツシモ」50ha、業務米・飼料米品種「みつひかり」60ha、その他品種「ひとめぼれ」「たかやまもち」10haで栽培した。

播種作業は5月10日頃から6月5日頃まで10回播種した。育苗管理は、播種後に発芽室、緑化室を経て、倉庫前駐車場及び休耕田に苗を並べて、露天で自動灌水装置を用いて育苗している。育苗時期の天候の影響により徒長する苗もあるが根の張りも良く、順調に田植作業が出来ている。



育苗：緑化室の様子（箱底施肥）

倉庫前駐車場

休耕田の育苗

「苗箱まかせ」は窒素成分のみを含むN400を使用しており、磷酸・加里成分を含まないため、本田にケイフンをブロードキャスターで投入しPK成分を補っている。また、品種により「苗箱まかせ」の溶出タイプを使い分け、生育・収量とも安定し良好である。作業労力及び資材コスト削減や収量安定により満足されており、元の栽培体系には戻れないとのこと。